



暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして

みんなが



と思える川西市に...

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち

市会議員団控室 TEL 740-1111 (内線4020)

直通FAX 759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodamich.exblog.jp



今年度 川西市では負担増！ 値上げなのに、制度改悪？！

値上げ！！国保・1億2600万円、介護・2億4400万円

消費税が5%から8%に値上げされて1年。8%への引き上げで8兆円を超える増収のうち、「社会保障の充実」にあてられたのはわずか16%。それどころか、新年度予算では、社会保障費が390億円も削減。所得は22か月連続でマイナス、年金はこれから「マクロ経済スライド」で減り続け、家計は大打撃です。(年金2.2%・1兆円削減)

川西市3月議会では、「国民健康保険税」、「介護保険料」値上げ議案が提出。「住民福祉の向上が自治体の役割」と値上げに反対しました。(議会ホームページ映像配信中)

国民皆保険制度守れ

2015年度は2年毎の保険税見直し年度。賦課限度額が、(年4万円増・85万円)見直され、中間層の負担がわずかに軽減されるものの、平均改定率3.19%、一人当たり賦課額は3170円の増額、市全体で約1億2654万円の負担増です。

国や自治体責任を明確に

平成24年度、都道府県の調整機能の強化と市町村国保財政の共同事業の円滑な推進のためにと療養給付費等負担金が2%減額され、都道府県調整交付金が2%増額されました。川西市としてこの影響額が6730万円や県の負担金、補助金の減額が行われ、「国民健康保険加入者の経済的困難さ」に拍車をかけ、構造的課題は解決されていません。

その上、川西市は、「一般会計からの法定外繰入れ」を昨年度比、1億8千万円減額した値上げ実施です。また、市独自として行っている高齢者や障がい者・子どもの福祉医療費に対する国



黒田美智議員

兵庫県議会議員選挙(4月12日投開票)では、日本共産党 吉岡けんじが、川西・猪名川で8123票(得票率12.47%)、議席獲得となりませんでした。昨年総選挙の比例得票率(10.4%)を上回る結果となりました。「戦争する国作りはやめて!」「これ以上の増税はムリ!」「税金のムダ使いは許せない!」等々たくさんの声を頂戴しました。

これからも憲法を軸足に、国も地方も「住民が主人公」の立場でがんばっていきます。



選挙戦お世話になりました

「保険料」納めて「介護なし?!」

川西市第6期介護保険計画がスタート。3年に1度の「保険料」見直しと大幅な制度改定の年となります。保険料の区分・段階は、13段階になり、月々の保険料が2千円以上値上げになる区分・段階があるなど、

大変な負担増です。保険料の値上げだけで2億4447万円。その上、制度の大幅改定により、サービス利用料は所得160万以上の人は2割負担。市内では約26%の方が対象になります。

特別養護老人ホーム入所は「要介護3以上」を対象者と限定するなど保険料は払うけれど、サービスを受けることができないう矛盾が日常的に表面化してきます。要支援1・2は、「給付措置」か

ははずれます。(移行措置期間有)

「医療・介護総合法」見直しを70歳・71歳の医療費窓口2割負担。入院・入所の部屋・食事代の負担増など「医療・介護の改悪」が目白押し。市として悪政の防波堤になり、手だてする事、国に意見を述べるよう求めています。

黒田の声

「高浜原発再稼働認めず」福井地方裁判所で仮処分決定
「司法はやっぱり生きていた」
「司法が再稼働を止めた」
雨の中 文字が躍る 躍る

「この決定が福島の人達へのせめてもの励ましになれば」
福島の被災者に想いを寄せた声

「新規制基準」に適合すれば大丈夫とする関電と規制委員会
しかし裁判長は
「(基準が)緩やかに過ぎ、安全性は確保されていない」と
「10年足らずの間に4つの原発で基準値振動を5回も超えているのに、過去の限られたデータの平均値で策定している」
「実績のみならず、理論面でも信頼性を失っている」と指摘

「原発事故は人命や身体、生活基盤に重大な被害を及ぼす国民の「人格権」が侵害される差し止めを求めるとは当然」と

最も新しいNHK世論調査
原発再稼働 賛成22%
反対47%

大飯原発につづく判決
命を守れ 生業を守れ
国民の声に耳を傾ける
大きなうねりが日本中を駆け

参院選、総選挙に続く重要な躍進

史上初、全都道府県に党議席

道府県議選31増の111議席

政令市議選29増の136議席

日本共産党の志位和夫委員長は13日、国会内で記者会見し、12日投票のいっせい地方選前半戦の結果について、「昨年の都議選・参院選挙での躍進、昨年の総選挙での躍進に続いて、重要な躍進を勝ち取ることができました。公約実現のために全力をつくすとともに、支持いただいた

有権者のみなさん、奮闘いただいた支持者、後援会員、党員のみならず心からのお礼を申し上げます」と述べました。

志位氏は、「111議席を獲得した道府県議選について「前回当選者(80議席)から大幅に議席を伸ばすことができました。道府県議選でわが党が議席を伸

志位委員長結果うけ会見



記者会見する志位和夫委員長(左)と山下芳生書記局長(右)=13日、国会内→記事の面

ばしたのは、1999年以来16年ぶりのことだ」と指摘。「7県で空白を克服し、非改選も含めて47道府県にすべてに史上初めて議席を確保することができました。道府県議選の当選者のうち58人が女性で過半を占め、女性員議席1党になつたことも特筆すべきことだ」と述べました。

136議席を得た政令市議選については「前回当選者(107議席)から大きく議席を伸ばすことができました」と表明。異知事選・政令市長選では「オール与党」の相乗り候補に正面から対決して善戦健闘しました」と指摘しました。

志位氏は政治論戦に「安倍政権が進める『海外で戦争する国づくり』『世界で一番企業が活躍しやすい

国づくり』の暴走に反対し、消費税、社会保障、雇用、原発、TPP(環太平洋連携協定)などで政策の根本的転換を訴えました。

これらは、安倍政権の暴走へ不安や怒りを強める多くの国民に共感と支持を広がったと思います」と述べました。

同時に、多くの自治体が日本共産党以外の『オール与党』となっていることで、『住民福祉の増進』という自治体本来の原点が投げ捨てられ、大企業、呼び込みや無駄な巨額開費に巨額の税金が投入される深刻なゆがみを告発し、政治的転換を訴えました」と指摘。

「論戦の基本は、国民の関心や願いに応え、国政と地方政治の民主的な転換の方向性を示したもので、的確な

注)今回当選者のあった政党のみ。「その他・諸派」には「大阪維新の会」を含む。すでに消えた政党の前回当選者数も「その他・諸派」に入れた。前回当選者数には、震災の影響で再選挙となった千葉県議選浦安区の結果を含む。

	計	現	元	新	女性	前回
共産	111	63	10	38	(58)	80
自民	1153	1004	13	136	(37)	1120
民主	264	198	12	54	(45)	347
維新	28	8	2	18	(1)	—
公明	169	142	—	27	(15)	171
社民	31	23	3	5	(5)	30
その他・諸派	65	50	1	14	(6)	140
無所属	463	250	29	184	(40)	442
合計	2284	1738	70	476	(207)	2330

道府県議選当選者数

2人区で12人当選 3人区で18人

12日投票の道府県議選で、日本共産党は定数2の選挙区で12人、定数3の選挙区で18人が当選しました。いずれも前回から大きく増え、「自共」対決の政党内閣が鮮明になりました。

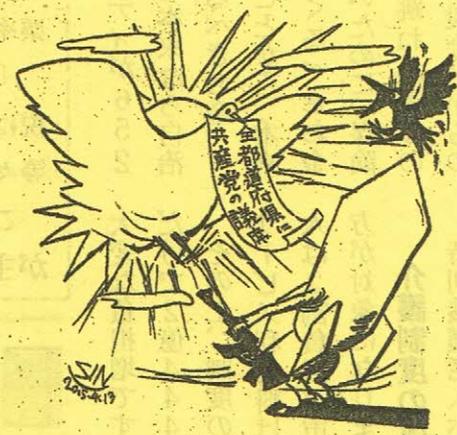
↓当選者一覧②面

2人区の当選は前回7人の倍近く増えました。今

回、現職の5人に加え、新たに埼玉・西5区(ふじみ野市・三芳町)、新潟市東区、長野の岡谷市・下諏訪市、埼玉・東7区(春日町区と塩尻市、名古屋市・横濱市鶴見区、川崎市中原区、相模原市南区、京都市山科区、北九州市若松区)の7選挙区で、新人・元職が当選しました。市小倉南区の7選挙区で、計12人のうち10人が新人・元職が当選しました。

その上で志位氏は、「区町村議選でも必ず、前進・躍進を果たしたい」と強調しました。

「前半戦の経験と教訓を



を生きかし、後半戦の市町村議選でも必ず、前進・躍進を果たしたい」と強調しました。

「躍進の可能性をくみつくす』『やるべきことをやりつくす』という基本姿勢を引きつづき堅持し、奮闘します」と決意を表明しました。

また、「日本共産党と国民との関係が大きく変化して、わが党への新しい関心や期待が

政令市議選当選者数						
	計	現	元	新	女性	前回
共産	136	82	15	39	(60)	107
自民	301	253	3	45	(20)	254
民主	126	107	4	15	(21)	161
維新	34	11	2	21	(3)	—
公明	174	147	0	27	(27)	176
社民	3	3	0	0	(0)	8
その他・諸派	93	59	4	30	(23)	142
無所属	154	109	8	37	(24)	199
合計	1021	771	36	214	(178)	1047

注)今回当選者のあった政党のみ。「その他・諸派」には「次世代の党」と「大阪維新の会」を含む。すでに消えた政党の前回当選者数も「その他・諸派」に入れた。前回はいっせい地方選日程では行われなかった名古屋、熊本両市についても、前回の当選者数に含めた。なお、熊本市南区で2候補が定数最下位で得票同数だったため、14日のくじ引きで最終的に当選者が決まる。

政治革新の道しるべ、
真実つたえ希望はこぶ

しんぶん 赤旗

お申し込みは黒田みちまで
(TEL&FAX 790-3055)